

27年漁期 まあじ漁獲可能量(TAC)期中改定案について

(単位:万トン)

魚種	系群	資源状態		ABClimit(日本EEZ)					TAC				備考
		水準	動向	25年	26年	27年	27年再評価	漁獲シナリオ(管理基準)	25年	26年	27年当初	27年改定案	
まあじ	<p>【中期的管理方針】 太平洋系群については、資源水準の維持を基本方向として、管理を行うものとする。 対馬暖流系群については、大韓民国及び中華人民共和国等と我が国の水域にまたがって分布し、大韓民国及び中華人民共和国等においても採捕が行われていることから、関係国との協調した管理に向けて取り組みつつ、資源の維持若しくは増大することを基本に、我が国水域への来遊量の年変動も配慮しながら、管理を行うものとし、資源管理計画に基づく取組の推進を図るものとする。</p>												
	太平洋	中位	横ばい	2.0	1.82	2.74	2.57	親魚量の維持(③)					<p>【27年TAC設定の考え方】 太平洋系群及び対馬暖流系群について、中期的管理方針に則して、ベースとするABCを、漁獲シナリオ③の「親魚量の維持(太平洋系群2.74万トン、対馬暖流系群20.3万トン)」とし、対馬暖流系群については、20.3万トンから韓国の直近5年平均の漁獲量1.8万トンを控除した18.5万トンを日本EEZの値とし、これらの合計値21.24万トンをTAC数量とする。</p> <p>【27年TAC期中改定の考え方】 当初TAC設定のベースとしたABCの再評価の結果、太平洋系群が2.57万トン、対馬暖流系群が21.7万トンとなったことから、これに合わせた数量24.27万トンにTAC数量を改定する。</p>
	対馬暖流	中位	横ばい	21.8 (18.4)	24.0 (20.8)	20.3 (18.5)	23.5 (21.7)	親魚量の維持(③)					
合計				23.8 (20.4)	25.82 (22.62)	23.04 (21.24)	26.07 (24.27)		21.4	23.42	21.24	24.27	

注1) 25年及び26年のTAC欄は期中改訂後の数量。

注2) 下段()書きについては、日本EEZの値。26年までは全漁獲量に対する日本EEZの漁獲割合から算出。27年は韓国の直近5年平均の漁獲量を控除して算出。